国立大学法人　福島大学

事 業 名	～国際交流を希望に～　ふくしま「ほんとうの空」プログラム			
実施期間	平成25年5月14日　～　5月25日　（5月14日及び5月25日は移動日）			
場　　所	福島県各所　（福島市、二本松市、相馬市、南相馬市、会津若松市、喜多方市）			
参 加 者	外国人留学生	地域住民・企業等	その他	合計
	13　名	13　名	104　名	130　名

＜実施内容＞

福島大学では、5月14日から5月25日の12日間、交流協定校であるミドルテネシー州立大学（以下、「MTSU」）の学生を招致する学生交流プログラム「～国際交流を希望に～　ふくしまほんとうの空」を開催しました。このプログラムのテーマは福島の現状を海外の学生に伝えることであり、復興に関わる地元NPOとの意見交換会や、沿岸地域でのボランティアとホームステイ、そして被災地の幼稚園や仮設住宅での交流など、地域の人たちとの交流がたくさん行われました。

会津若松にある学鳳中学校では、
中学2年生の3クラスと交流を行いました

初日に、お好み焼き屋さんで
歓迎会が開かれました

相馬市の原釜幼稚園では
世界の遊びをとおして
交流を行いました

相馬市の大野台仮設住宅では、
避難者の方々と昔遊びをして
遊びました

ファームステイでは、
参加学生と日本人学生が
一緒に共同生活を行いました

今回のプログラムでは、日替わりで合計35名の福島大学生のボランティアが参加してもらい、プログラムのお手伝いをしてもらいました。学生達は、アメリカからの参加者と積極的な交流を行い、たった12日間の間でしたがたくさんの友情が生まれました。

また、沿岸地域でのホームステイの他に、山間地域ではファームステイも企画され、受入れ家庭、留学生、日本人学生全員が一緒に宿泊をし、共同で生活をしました。この体験は、国際理解の向上や、語学の必要性を実感する良い機会となりました。さらには、今回初めて被災地域の住民の呼びかけで、漁船から被災地を視察することも行われました。福島の海の現状を自分の目で視察することで、参加学生はテレビなどで報道されていない被災地域の姿や、そこに住む人達の思いを知るきっかけになりました。

プログラム最終日には新しい学生交流協定の調印式も行われ、今後ますます交流が発展する事が約束されました。プログラム参加者には、福島の現状とその魅力を母国に伝えてもらい、地域住民の「福島を知ってもらいたい」という要望に応えていくことが、期待されています。

＜参加者からのコメント＞

モーガン　ハンレン　さん（アメリカ）/ Morgan Hunlen (USA)

プログラムを通して、本当にたくさんの人との交流の場を頂けました。また、活動の中でも特に、瓦礫の撤去や、ファームステイ、そして地元のNPOとの意見交換は、とても有益で相乗的な機会であったと思います。このプログラムを通して、私の人生観は変わりました！次世代の為にも、福島の復興の為にも、今後ずっとこのプログラムを存続して欲しいと願います。

ケイティ　スミス さん（アメリカ）/ Katie Smith (USA)

今回のプログラムは、地元の方々との触れ合いが中心であり、私たちは幅広い世代の人たちと交流をさせて頂きました。こういったプログラム構成の優れている所は、私たちに先入観が無い状態で地域の事を学び、感じさせてもらえる所です。また、このプログラムの素晴らしさは、参加者それぞれがバックグラウンドに関係なく、いつもなら不安と感じてしまう様な壁を乗り越えさせ、成長させてくれるところです。この短期プログラムのテーマは、人によってはもしかしてタブーと考える人もいるかもしれません。しかし、誰でも必ず実りがたくさんあるプログラムであるので、今後もこの事業を信じて続けて欲しいと思います！